

三愛オブリを知る

- 02 会長メッセージ
- 03 これまでの創造価値
- 05 三愛オブリグループの価値創造プロセス
- 07 重要なステークホルダーへの提供価値
- 09 社長メッセージ

中期経営計画

- 11 目指す姿
- 13 中期経営計画
- 15 航空関連事業
- 16 ガス関連事業(LPガス)
- 17 ガス関連事業(天然ガス)
- 18 化学品関連事業
- 19 石油関連事業
- 20 その他事業

サステナビリティ活動

- 21 サステナビリティマネジメント
- 23 マテリアリティ 01
気候変動への対応
- 27 マテリアリティ 02
エネルギーの安定供給
- 29 マテリアリティ 03
ダイバーシティ&インクルージョンほか
- 33 マテリアリティ 04
コーポレート・ガバナンス
- 37 活動ハイライト
- 39 データハイライト(連結)

編集方針

本報告書は、三愛オブリグループの2023年度のサステナビリティに関連する取り組みをステークホルダーのみなさまに分かりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

報告対象範囲

三愛オブリ(株)の活動を中心に、三愛オブリグループ全体やグループ各社の活動について取り上げています。

報告対象期間

2023年度(2023.4.1~2024.3.31)を基本としていますが、一部2024年度の発行時点までの事象も含んでいます。

発行時期

2024年11月(次回発行予定 2025年11月)

免責事項

本報告書には、将来予測も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性があります。

参考にしたガイドライン等

- ・環境省「環境報告ガイドライン」2018年版
- ・「ISO26000:2010社会的責任に関する手引」
- ・「持続可能な開発目標(SDGs)」



会長メッセージ

三愛精神「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」のもと 人的資本経営の推進により、社会へ新たな価値を提供する

代表取締役会長 **金田 準**

2020年から世界的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症は、2023年5月に5類感染症に移行し行動制限が解除されたことで、国内経済は緩やかに回復しましたが、ウクライナ紛争や緊迫するイスラエル情勢などの地政学的リスクにより、エネルギー資源をはじめとするさまざまな商品やサービスの価格が高騰し、個人消費の減退などが懸念されています。また、地球規模で気温上昇が進み、各国におけるGHG排出量の削減が急務となっています。

このような状況下において公表した第2次中期経営計画は、サステナビリティに関する重要課題「気候変動への対応」「エネルギーの安定供給」「ダイバーシティ&インクルージョンほか」「コーポレート・ガバナンス」を中心に据えた構造となっています。社会課題の解決と経済価値の創出が同時に求められる厳しい事業環境の中で生き残る企業集団となるためには、人材が持つ能力や価値を最大限に引き出す人的資本経営の推進が不可欠です。研修や教育体制を強化することで個々の能力開発を図るとともに、変革を生む挑戦的な組織風土を醸成することで、社会に新しい価値を提供する人材を育成してまいります。

これからも経営理念である「三愛精神」のもと「人々の生活と産業を支えるパートナー」として事業に邁進してまいりますので、ステークホルダーのみなさまには変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

三愛精神

三愛オブリグループは、経営理念である三愛精神「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」を軸に倫理行動憲章を制定し、グループ全体でより良い社会の発展に貢献することを目指しています。

- ふれあうすべての人々の人格を尊重し、分け隔てのない人間関係を築きます。
- 企業活動を通して、より良い社会の発展に貢献します。
- 仕事に誇りを持ち、自律的、創造的に行動します。



創業者 故 市村清の経営理念

これまでの創造価値

三愛オブリ(株)は1952年の創業以来、航空燃料取扱業、ガソリンなどの石油製品販売業、家庭用を含むLPガス販売業、防腐防カビ剤などの化学品製造販売業、都市ガス事業を含む天然ガス事業と事業領域を広げてまいりました。

このページでは、創業からの価値提供の歴史を三愛精神「人(消費者、取引先、株主)」「国(地域社会、環境)」「勤め(従業員)」になぞらえ、主な出来事とともに振り返ります。

三愛精神のもと 1952年に 三愛石油として 誕生

創業者市村清が日本における石油の重要性にいち早く着目し、石油製品の販売を主な事業目的として三愛石油株式会社を発足。

羽田空港にて自主運航を開始した航空会社より、燃料補給代行特約店に指定されたことを受け、羽田営業所を開設。航空機の給油事業に着手。

※1 地下パイプラインで航空機まで航空燃料を圧送するシステム
 ※2 サービスステーション
 ※3 Sustainable Aviation Fuelの略称。原材料の生産・収集から燃焼までの過程でCO₂の排出量が少ない持続可能な供給源から製造されるジェット燃料



1959 ▶▶

SS^{※2}経営に乗り出し、本格的給油所第1号を開設。車社会の発展を支える。



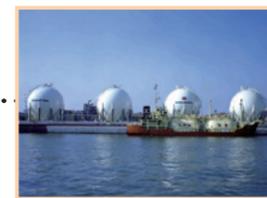
1960 ▶▶

LPガス需要が高まり、国内初の100tの貯蔵能力を誇るLPガス冷凍貯蔵タンクを建設。大型冷凍タンクによるLPガス貯蔵のパイオニアとして、業界の発展に貢献。



1978 ▶▶

建設需要に応えるため、営業体制を強化するため、ビル建設の総合請負、三愛設備(株)(現:三愛オブリテック(株))を設立。



1983 ▶▶

川崎ガスターミナル完成。関東における一大拠点として操業開始。



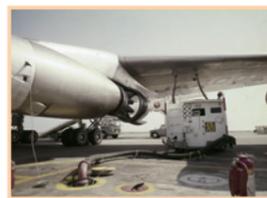
2001 ▶▶

SS業界における規制緩和を受け、各地にセルフSSをオープン。車検センターを併設させるなど、地域住民の生活インフラを支える。



2004 ▶▶

キグナス石油(株)の全株式を取得。仕入れの安定化と販売ネットワークの拡充を図る。



1955 ▶▶

日本初、ハイドラントシステム^{※1}による給油を実現。航空燃料給油事業の発展に貢献。



1969 ▶▶

化学品メーカーとして臭気毒性のない泡消火剤「スーパーフォーム」を東京消防庁化学研究所と共同開発。全国で大きなシェアを占める。



2002 ▶▶

佐賀ガス(株)を設立。その後、天然ガスパイプラインを敷設、都市ガス供給を開始し、ライフラインを支える。



2008 ▶▶

高知県および高知県本山町と「協働の森パートナーズ協定」を締結。積極的な地域交流が行われる。



2013 ▶▶

太陽光発電システムにより使用電力の再エネ化を図る。



2020 ▶▶

CO₂排出量の少ないSAF^{※3}の受入・給油を開始。燃料の受入、品質管理および航空機への給油に協力。



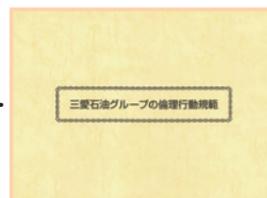
1990 ▶▶

創立35周年記念事業として熱海市に研修センターを開設。人づくりを通じて企業の活力源を生み出す。



2000 ▶▶

従業員と経営層が対話する「マネジメントフォーラム」を初開催。現在まで毎年継続して開催されている。



2002 ▶▶

三愛精神を礎に、当社グループで働く一人ひとりが順守すべき行動や基本を明示した「倫理行動規範」(現:倫理行動憲章)を制定。



2017 ▶▶

「女性が自分らしく働くために」をテーマに女性社員向けフォーラムを開催。



2017 ▶▶

「健康基本方針」を制定。「健康経営優良法人～ホワイト500～」を初めて取得。



2024 ▶▶

人材を最大の経営資本と捉え、「人的資本経営に関する基本的な考え方」を策定。

三愛オブリグループの価値創造プロセス

社会課題

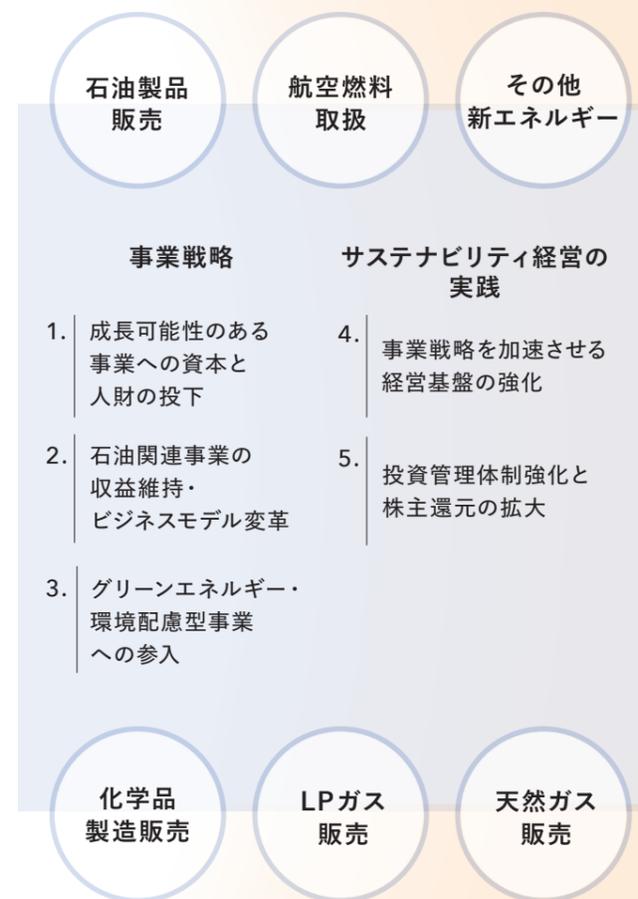
- 少子高齢化
- 労働力不足
- 地域の過疎化
- 自然災害の増加
- 気候変動



マテリアリティ

- 01 気候変動への対応**
 カーボンニュートラルな社会の実現に向けた取り組み
 → P23
- 02 エネルギーの安定供給**
 人々の生活と産業を支えるパートナーを目指す
 → P27
- 03 ダイバーシティ&インクルージョンほか**
 人材の確保と育成
 → P29
- 04 コーポレート・ガバナンス**
 経営の効率化と透明性を確保しステークホルダーの信頼を得る
 → P33

事業活動



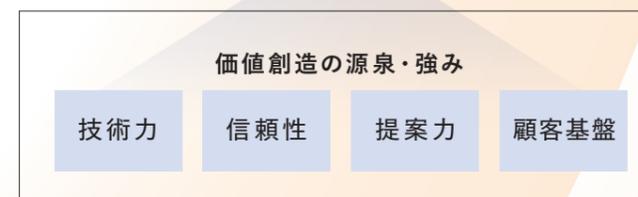
OUTPUT

総合的なエネルギーサービスで幅広い顧客課題を解決

新規事業開発やM&Aによる事業領域の拡大により多様な顧客ニーズに対応

OUTCOME

ステークホルダーへの価値創出



重要なステークホルダーへの提供価値

三愛オブリグループでは、幅広いステークホルダーと対話を行い、新たな価値提供に向けて、邁進しています。

Obbli

